

## 三宅島 2000 年カルデラ壁の地質 (予察)

## Preliminary report on the geology of 2000AD caldera wall in Miyakejima Volcano.

# 及川 輝樹 [1]; 下司 信夫 [2]

# Teruki Oikawa[1]; Nobuo Geshi[2]

[1] 産総研・地質情報; [2] 産総研・地質情報

[1] AIST, GSJ; [2] GSJ, AIST

三宅島山頂には 2000 年の噴火活動によって直径 1.6km, 深さ 500 m あまりのカルデラ (2000 年カルデラまたは雄山カルデラ) が形成され, その内壁には成層火山の断面が露出した. 今回, このカルデラ壁の観察と写真測量を行い構造の形態を行ったので報告をする.

カルデラ壁には新 (八丁平カルデラ) 旧 (桑木平カルデラ) 二つのカルデラを埋積した火山噴出物が露出している. 主に 2000 年カルデラ壁の南側に露出する八丁平カルデラを埋積した堆積物は厚い溶岩流が主体で火砕物に乏しい. その一方主に北半分の 2000 年カルデラ壁に露出する桑木平カルデラを埋積した堆積物は, 赤褐色のアグルチネートおよび厚い降下火砕岩層を主体とする火砕岩層に富んだ堆積物である. つまり桑木平カルデラを埋積した大船渡期の活動はサブ・プリニー噴火などの爆発的な噴火が主体で, 八丁平カルデラを埋積した雄山期の活動は溶岩流の流出などの溢流噴火が主体である.

カルデラ壁には, 過去の火口の断面が多数露出し, これらは大きく 3 つのタイプに分けられる. 1. 陥没構造を持ち, 火口周辺に明瞭な火砕丘をつくらない火道. 2. 厚い火砕岩で形成された H/L 比の低い扁平な火砕丘を伴う上方に広がる火砕岩パイプとそれに貫入した岩脈で形成される火道. 火口の周辺は厚いアグルチネートが分布する. 3. H/L 比の高い火砕丘と岩脈から形成された火道. 1 のタイプはスオウ穴直下に, 3 のタイプは 1535 年噴火の火口下に認められ, 2 のタイプは桑木平を埋積した大船渡期の噴出物中に数多く認められる. 火道から噴出された火砕物とその分布形態から, 1 はマグマ水蒸気爆発により, 2 はサブ・プリニーの噴火により, 3 は 2 より弱いストロンボリ噴火により形成された火道と結論づけられる.